

海外安全対策情報（2018年10月～12月：ナミビア）

1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当地はアフリカの中では比較的安全と言われているが、金品目的の軽犯罪は恒常的に発生しており、邦人旅行者が被害者となる事件も発生している。最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によると、首都ウイントフックが位置するコマス州における犯罪発生件数はナミビア全体の約4割である。首都ウイントフックにおける犯罪は主に住居侵入、暴行、盗難、車上荒らし、車上強盗であり、犯行集団は首都ウイントフックの貧困層居住地域（カタトゥーラ地区）に存在する。犯行集団の多くは貧困層の素人集団であり、プロによる犯行は少ない。貧困層居住地域にはナミビア伝統料理を提供する観光客で賑わうマーケットが存在し、昨年、日中に邦人が路上強盗に遭う被害が発生している。

（2）当地の失業率は、2014年の28.1%から2016年は34%と近年増加傾向にあり、特に若い世代の失業率は2016年に37.8%と近隣国と比べて非常に高く、それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物は容易に換金できる、カメラや携帯電話等の電子機器である。当地ナミビア安全保障省の犯罪統計の数値では、当国における携帯電話の盗難被害発生件数は、2014年の4,446件から2016年は6,075件と、過去2年間で27%の増加を示している（参考 近隣国失業率：南アフリカ26.7%、アンゴラ26%、モザンビーク24.37%、ボツワナ17.6%、ザンビア7.53%、ジンバブエ5.09%）。

（3）環境・観光省のデータによると、当地を訪れる外国人観光客数は年々増加傾向にあり、2015年の1,519,618人から2016年は1,574,148人と3.6%の増加を示している。それに伴い、観光客が多数訪れるスワコップムントとウォルビスベイを管轄するエロンゴ州の犯罪発生率は、2014年から2016年にかけて12%増となり、観光客が被害者となる犯罪は増加している。邦人観光客数も2015年の2,192人から2016年は3,957人と44%の増加が見られ、旅券盗難被害は2016年の6件から2017年の9件と33%の増加、今年2018年に入ってから1月に1件、2月に1件、9月に1件、邦人旅行者に対する強盗被害が発生している。

（4）銃器に関連した刑事事件について、警察庁発表の統計によると増加の傾向はないが、当地の治安当局は年々増加する銃器の増加、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に伴い、銃器関連の犯罪増加につき懸念している。近年、体感治安の悪化により国民が安全意識の向上に関心を示し、銃の免許取得者は年間6,000

～7,000人のペースで増加している。銃器盗難件数は2016年に過去最高の250件を越えており、当地の銃器を使用した強盗は全体の強盗事件の内24%、銃器を使用した殺人事件は全体の殺人事件の14%となっている。

なお、Small Arms Survey（※当館注：スイスジュネーブにある国際研究所）が6月に発表した調査結果によれば、ナミビアの銃器所持率はアフリカで二番目に高く、396,000台の個人使用目的の銃器があり、内195,990台が違法、200,010台が合法の銃器と推定されている。

2 外国人に対する犯罪の事例

（1）10月2日、午後10時頃、当館から北へ約2.5kmの観光客で賑わうレストラン付近で、台湾人旅行者に対する路上強盗事件が発生。被害者は食事を終えレストランから200m程離れた宿泊先へ徒歩で移動中、複数名の犯行集団にパンガ（蛮刀）で脅され、旅券、現金、携帯電話等を強奪された。

（2）10月2日、午前11時頃、当館から南へ約4kmのオリンピア地区、在留アメリカ人女性宅への不審者侵入事件が発生。本人が車で帰宅してから数分後、庭に不審者がいるのを発見し、大声をあげたところ、不審者は逃走した。

（3）10月3日、午後5時頃、当館から南へ約200kmのロッジ（Kakahari Red Dune Lodge）に宿泊していたスイス人旅行者2名に対する強盗事件が発生。犯行集団は部屋に侵入し、旅行者2名を脅し、現金4,000ナミビアドル、200スイスフラン、200ユーロ、ATMカード、旅券、宝石類、衣服、電子機器等を奪い逃走した。

（4）10月6日、日中、当館から南へ約400kmのマリエントル（Mariental）とゴチャス（Gochas）を結ぶグラベルロード（未舗装の砂利道）上で、53才と60才のドイツ人旅行者に対する車上強盗が発生。被害者は犯行集団が運転するガラス全面がスモークフィルムで覆われた銀のポロに道を塞がれ、停車させられ、ナイフを突きつけられ、金品を要求された。被害は現金、携帯電話等の電子機器で、被害総額は81,000ナミビアドル相当。

（5）10月13日、日中、当館から西へ約350kmのウォルビスベイで、南アフリカ人旅行者に対する車上荒らしが発生。被害者は路上に車を駐車し戻ったところ、被害を確認。現金及び金品類24,800ナミビアドル相当が盗まれた。

（6）11月17日、午後2時頃、当館から西へ約3kmのバーニヒルショッピングモー

ルの施設内ATMで、ベルギー人旅行者がATMカードを強奪された。警察によれば、ベルギー人旅行者はATMを利用中、背後から近づいてきた見知らぬ男に話かけられ、注意をそらされたところで、ATMカードを奪われたとのこと。

(7) 11月22日、午前11時頃、当館から北へ約3kmのエロスショッピングモール敷地内の駐車場で、フランス人旅行者に対する車上荒らしが発生。フランス人旅行者は車内に荷物を置き、買物のため数分車を離れ、買物を終えて戻ったところ被害を確認。現金及びノートパソコン等24,800ナミビアドル相当が盗難された。

(8) 12月2日、午前0時頃、当館から東へ約10km、アメリカ人旅行者3名が宿泊していたロッジで強盗事件が発生。3人組の銃器武装した犯行集団が旅行者らに銃を向け脅し、携帯電話、クレジットカード、衣服、カメラ等、約12,000USD相当を奪い逃走した。犯行集団は車で逃走中、検問で逮捕された。逃走中、犯行集団が捨てた書類等の盗品以外、被害者の元へ返却された。

(9) 12月16日、午後2時頃、当館から西へ約3kmのフォーガルストリートでベルギー人旅行者2名に対する路上強盗事件が発生。ベルギー人旅行者は徒歩でハイキングへ向かう途中、トヨタ・カローラに乗った犯行集団に襲われ、現金、カメラ、身分証等を強奪された。後日、被害者が記憶していた犯行時に利用された車の登録番号をもとに警察が車を特定、容疑者として車の持ち主が逮捕された。同車の持ち主は犯行を否認しており、盗品の所在は不明。

3 薬物・危険ドラッグについて

(1) 薬物や危険ドラッグ等の密輸に際してブラジルから南アフリカ、南アフリカからアンゴラの経由地として当国が利用されている。観光地や首都ウィントフックの一部バーではマリファナやコカインが使用されている。事件に巻き込まれない様、バーやクラブには近寄らないことが肝要である。

(2) 今年6月15日の午後12時頃、当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで、ブラジル、南アフリカを經由して持ち込まれた412kgのコカイン（市場価格206,000,000ナミビアドル、日本円で約20億円）が押収された。当地国境付近では、2017年1月から9月までに、ナミビア国籍、南ア国籍、アンゴラ国籍、マラウイ国籍、ザンビア国籍を含む少なくとも35名が薬物密輸で逮捕されている。

4 交通事故

交通事故による死者数は年々増加の傾向にあり、2011年の492件から2016年731件と5年間で33%増加している。交通事故発生時の主な原因は、スピード超過、

不注意、無謀運転等である。2016年のデータによれば、横転事故が全体の交通事故の29%を占め、次いで追突事故が27%、歩行者との接触が23%となっている。直線で片側一車線という道路も大きな要因のひとつである。大型幹線道路で高齢者や初心者、または大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因のひとつである。観光客が移動中、飲酒運転による無謀運転の事故に巻き込まれ死亡したケースも発生しており、飲酒運転手の事故に巻き込まれないよう、信号が青でも、交差点に進入する際は左右の確認をする等、注意が必要である。なお、最新の情報によれば、2018年の1月から9月までの交通事故報告件数は2543件、死者373人となる。

5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

6 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人が被害者となる、身代金目的の誘拐事件は認知していない。

7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○9月5日付、ナミビアにおけるE型肝炎の拡大

○9月19日付、外国人観光客に対する車上強盗事件の増加

○9月23日付、邦人旅行者に対する路上強盗事件の発生

○9月27日付、【一部訂正】邦人旅行者に対する路上強盗事件の発生

○10月19日付、最近の旅行者を狙った犯罪増加について

○11月23日付、ブラックフライデーに伴う犯罪増加

○11月29日付、年末年始に伴う犯罪増加（了）